

第8回建設産業戦略的広報推進協議会 議事概要

日時：平成27年7月6日(月)10:00～12:00

場所：(一財)建設業振興基金 3階 301会議室

【高校等キャラバンについて】

○工業高校の就職先は、ゼネコンが多く、専門工事業は少ない。工業高校のみを対象とした求人活動では、今後の労働者不足を補えない。積極的に小中学校の生涯学習の活動に、建設業が飛び込んでいくことが必要。

○対象を工業高校から、小中学校まで広げることは良いこと。現場見学について、危ないからと言って断るケースがあるが、改善しないといけない。発注者や元請には、子供たちに体験をさせても良いという現場を作ってもらいたい。工事の全体工程の中で子供たちに体験学習をさせられる場所は沢山あるはず。

○子供たちが現場に来れば、親もついてくるので、建設業界に対する理解が深まる。このような活動を業界全体で全国展開できると良い。

○広報推進協議会としては、できるだけ先進的な取組みを打ち出し、その活動と使用したコンテンツ等を提供し、結果的にそれが全国展開できるようにしたい。昨年の工業高校キャラバンの活動などを積極的に展開し、活動の広がりを目指す。

○広報の展開にあたり、マニュアル化する必要がある。最良事例を分析し、1時間バージョン、2時間バージョン等、複数パターンがあると良い。マニュアルは、パワーポイントで作成することで、資料の追加や削除などカスタマイズできる。

【広報活動等について】

○富士教育訓練センターの建設について、近所の小学生を「見守り隊」として起用し、建物ができていく様子を定期的に同じ小学生に見学してもらい、同時にその工事工程について理解してもらおう。ゼネコンだけではなく、専門工事業の作業内容も紹介していくなど、他の建設現場にも応用できる取組みなど検討してはどうか。

○こちらからのアピールだけではなく、受入側との協力でマニュアルを作り上げていく事が必要。また現場の辛さを軽減、改善する技術開発の紹介など、違った観点からのアピールの仕方も大事。未来の職人さんのイメージを伝える。

○先生方には、学校ができる過程を紹介するのが喜ばれるのではないか。自分達が学んでいる学校の耐震工事を見せる事から始められないか。

○国土交通省だけではなく、文部科学省等と連携して行えないか。個別の団体だけでは難しいが、広報推進協議会なら文部科学省等と連携が可能ではないか。

【全体を通して】

○今、発信できるものを引き続きだしていく事も必要だが、発信しようとしたときに、我々

も襟を正さなくてはならない、発信できない状況があればそれを改善する必要がある。

○夢のあるキャリアパスを示せるかなどを検討していくことで、建設産業の課題が改めて浮き彫りになるのではないか。

○大事なのは女性視点。

建設業に入職しない理由として、母、妻に反対されたというケースがある。女性に建設業の魅力を感じてもらえる事が短期的な課題。女性にどう評価してもらえるか研究する価値有。

以 上